

2008年4月15日

フェロアロイ（合金鉄）市況近況

鉄鋼添加用のフェロアロイ（合金鉄）市場は中国のオリンピックリスクと南アの電力不足問題を中心に需給タイト感が根強く、全品種的に上げ基調で推移している。特にマンガン系は中高品位のマンガン鉱石の構造的な供給不足と一種の思惑的な買いにより、しばらくは高原市況が続くものとみられている。史上最高値を更新しているフェロクロム（高炭素品）はスポットでポンド当たり 300 ϕ を超えている状況。

1. フェロシリコン (ferro silicon) =1500\$/t で強基調維持

足許は 1500\$/t で推移。過去最高値圏で高値一服。年初 1100\$/t 前後だったが旧正月明けに中国への買いが殺到し高騰。年初の大雪で物流、電力ともに障害が生じたことも一因となり相場は急上昇。上がりすぎた反動で反落が待たれたが、需給ひっ迫感は薄れていないことと、次は北京オリンピック開催前後の供給不安感から基調は強含み。

～オリンピックリスク～

中国産の合金鉄に関しては、いわゆる「オリンピックリスク」がある。北京オリンピックが開催される夏場は「環境対策」として合金鉄、コークス製造企業などは強制的に操業を休止させられるか、極端に操業率を落とすようなコントロールが成されるのではないかと予測される。そのため4-6月に在庫を確保しておこうという動きが現在の相場に表れている。コークス企業は山西省に固まっているが、オリンピック開催前後は山西省のコークスメーカーのコークスの生産、供給が止まるのではないかとされている。コークスはフェロシリコンはじめあらゆる合金鉄の還元剤に欠かせないため、もしもコークスの生産、供給が止まるようなことになれば当然のことながらフェロシリコンの生産にも多大な影響が及ぶ。フェロシリコンメーカーは内モンゴルや寧夏省に多い。

2. シリコマンガ (Mn65%) (silico mangane) =2450\$/t で強含み

シリコマンガの場合は中高品位のマンガン鉱石の構造的な供給不足から、なおも値上がりする可能性が大。現在は 2450~2500\$ で推移。これも過去最高値 (=グラフ参照)。中高品位のマンガンは主に南アフリカ、ウクライナで生産されるが、南アは年初からの電力不足でクロムとともにマンガンの供給もショート。南アのアソマン社の火災事故も需給ひっ迫感を強めた。ブラジルもマンガン鉱石の主要供給国だが、同国の最大生産者であるヴァーレ (Vare) 社が港湾までに輸送する鉄道使用を鉄鉱石優先にしていることもマンガンの供給の遅れに影響している模様。

～ウクライナと中国要因～

昨年4月、ウクライナ最大のマンガンメーカー、プリバット (privat) 社はガーナのマンガンメーカー、ガーナマンガニーズ社を買収、さらに現在は豪州の CML 社にも触手を動かしているということで、マンガン市場で同社のアグレッシブなパフォーマンスは非常に注目されている。プリバット社はかつてソ連の国有マンガン企業であったニコポール (Nikopol) 社のオーナー会社であり、マンガン合金鉄の生産能力は 120 万 t/年。プリバット社は自前のマンガン鉱山 (中低品位) をもち、鉄鋼メーカーを保有しコークスを生産している。さらに電力会社、銀行まで保有しているいわゆるコングロマリット (複合企業体) である。自国ウクライナでもマンガンを使うという理由もあるが、同国からの供給は政策的に絞られているのが現状。

また現在はプリバット社の傘下にあるガーナマンガニーズ社のマンガン鉱山は炭酸マンガン鉱といい、中国の低品位マンガン鉱と似ている。中国の場合、自国で採掘できる低品位マンガンは金属マンガン (メタマンガン) に使っており、これの最大需要分野はステンレスの 200 系。昨年の中国のメタマンガン生産量は 06 年比 40% 増の 102 万 t だった。そして中国はシリコマンガンの生産者でもある。中国企業がシリコマンガンを製造するためには海外から中高品位のマンガン鉱石を「輸入」しなければならない。この中国の中高品位マンガン鉱の買いもマンガン相場を押し上げている。

日本国内には日本電工、水島合金鉄がフェロマンガンを生産 (2 社合計で 60 万 t/年) しているが、フェロマンガンにも高品位のマンガン鉱石が必要。

以上がマンガン市場の概略だが、世界の粗鋼生産増加とマンガン供給そのものの不足 (* 増産計画はあるが遅れている)、マンガン生産者の寡占化などによって、マンガン相場はしばらく高原市況が続くと思われる。

3. フェロクロム (fero chrome) = スポット 300 円 超え

世界のステンレスメーカーが 4 - 6 月の高炭素フェロクロム購入価格を前期比 55% アップの 200 円で合意妥結に至ったばかりだが、その後もフェロクロム相場は上昇を続けている。スポット市場では現在 300 円 超え。クレディスイス証券は早々と「クロム価格は来年には 400 円に達するであろう」と相場予想をコメント。南アの電力不足問題から、現地のエクストラータ (Xstrata) 社、サマンコール (Samancohr) 社は不可抗力 (フォースマジュール) 宣言を発し、今なお供給はショート (不足) している。クロム市場はエクストラータ社、サマンコール社、そしてカザフスタンのカズクロム社が BIG 3 だが、カズクロム社のオーナー会社である ENR 社は昨年 IPO で資金調達を行い、イギリスで株式上場した。その際にカザフスタンの資本比率は低下し、民間の資本比率が上昇している。これによって ENR 社は「国益」よりも「会社の利益」を追求する格好となり、これまで以上に ENR 社のクロム販売姿勢は「強気」になっている。加えて鉄鋼、ステンレス生産が急増しているインドがマンガンとともにクロムも輸入国になっていることも相場高騰の一因とみられる。